

大分市地域まちづくりビジョン

明野地域 まちづくりビジョンフォローアップ会議 通信 第3号

発行：令和4年2月10日 明野地域まちづくりビジョンフォローアップ会議事務局

12月に開催された「明野地域まちづくりビジョンフォローアップ会議」についてご報告します。市から委嘱を受けた各団体の代表が参加し、明野地域まちづくりビジョンに13項目ある取組みから、8月に開催された「ふれあい市長室」にて市長と意見交換した4項目（右頁）について、活動報告や意見交換を行いました。

■フォローアップ会議の目的

個性を活かした魅力ある地域づくりを推進するため、市内13地域において、地域が目指すまちの将来像やその実現に向けた取り組みをまとめた「地域まちづくりビジョン」を策定し、平成30年7月に地域から市長に提言いたしました。ビジョンの実現に向けて市民と行政と一緒にまちづくりを進めるため、地域や私たちができることテーマでビジョンに掲げる事業の取組状況を報告し、その進め方や課題などについて情報共有や意見交換を行うものです。

■明野地域まちづくりビジョンフォローアップ会議

日時：令和3年12月17日（金）14：00～
場所：あけのアクロスタウン アクロスホール
【議事】

- ①会議の公開について
- ②「地域まちづくりビジョン」及び「地域まちづくりビジョンフォローアップ会議」概要について
- ③地域まちづくりビジョンに掲げる事業の進捗について
- ④意見交換
- ⑤今後の予定について

- 【会 長】山田 軍才（明野校区公民館長）
【副会長】小野 昭三郎（明野地区自治会連合会会長）
【委 員】明野地区自治会連合会・明野地区社会福祉協議会・明野地区地域婦人団体連絡協議会・明野地区体育協会・明野地区老人クラブ連合会
明野地区小中学校PTA・明野地区防災士連絡協議会・明野地区クリーン推進員協議会・明野地区青少年健全育成連絡協議会
明野地区民生委員児童委員協議会・明野地区健康推進員協議会・明野地区人権尊重推進協議会（以上団体から18名）計20名

■ビジョンに掲げる取組の状況について（抜粋）

○提言1「多世代が交流する地域コミュニティの新構築を」

【取組1 コミュニティ新構築のための多世代交流】

- ・多世代交流プラザ建設について「明野懇話会」を結成（地域）
- ・由布市湯布院地域複合施設「ゆふいんラックホール」視察（地域）

○提言2「明野を総合防災拠点に」

【取組3 幹線道路整備と歩道の改良】

- ・団地内美化活動として歩道清掃や植栽を実施（地域）
- ・各団体連携による「すこやかパトロール」を実施（地域）

○提言3「新しい試みと魅力の発信を」

【取組4 公園・緑地の整備と利活用】

- ・緑地や歩道の除草や植栽を実施（地域）
- ・県営住宅建て替えに係る要望を大分県へ行う（地域）
- ・公園への高齢者向け健康遊具設置について協議（地域・行政）

○提言4「多様な文化活動の広がりや深まりの推進を」

【取組13 明野ブランドの創生】

- ・クリーンアップ歩こう会 in 明野（実施日：令和3年11月3日、参加者：約600名）の実施（行政・地域）



「ゆふいんラックホール」視察

■意見交換での主な内容（抜粋）

【取組1】「コミュニティ新構築のための多世代交流」より明野支所を核施設とする「多世代交流プラザ」の建設について

委員報告①

- 既存明野支所の土地所有者、施設管理者等と「明野懇話会」を結成して第1回懇話会を開催し、意見交換を行う。

委員報告②

- 建設を希望する「多世代交流プラザ」と類似する、湯布院地域複合施設「ゆふいんラックホール」を自治会長およびフォローアップ会議委員にて視察。

大分市→市が新たに用地を確保し建設することは困難だが、あけのアクロス内での支所拡張は継続協議する。また、民間が施設を建設する場合、その一部をリースすることも条件が整えば可能性として考えられる。

地域として→今後も視察や懇話会を継続実施して、関係者等の合意形成を図っていく

【取組4】「公園・緑地の整備と利活用」より公園への高齢者向け健康遊具設置について

委員意見①

- まずは大きな公園へ設置され、将来的には身近な公園へも設置してもらえれば、健康寿命を延ばすことへつながる。

委員意見②

- 公園に設置されている鉄棒は児童用で低いものが多く使用しづらい、また近年学校への立ち入りもセキュリティの関係で困難で学校遊具も使えない。

大分市→明野地区には街区公園、近隣公園、地区公園、緑地をあわせて47ヶ所あり、今後、設置場所、設置遊具、設置時期について地域と協議していきたい。

地域として→設置する遊具や場所等、具体化について市と協議する

【取組6】「コミュニティバスの運行などの公共交通網の整備」より明野団地内の循環バスについて（買い物困難者や病院等への通院の交通面確保）

大分市→市が行っている3つの既存事業「おでかけ交通」「ふれあい交通」「路線バス代替交通運行事業」について説明。

委員意見①

- 市の補助を活用し、自治会等が主体となり、地域住民の利便性を図っている「おでかけ交通」（富士見が丘団地）など、参考にしたい。

委員意見②

- 明野地域のなかにも高低差や道路環境に違いがあり、場所によっては小型バスの循環が必要で明野地域にあった方法を考える必要がある。

地域として→今後も市と情報交換しながら必要性や手法について具体的に議論していく



【取組7】「多様な世代に対応した住宅の供給」より県営住宅の改善に関する要請について

委員報告①

- 大分県担当課を訪問して意見交換および要望書を提出した。「公営住宅マスタープラン」にバリアフリーや地域に開かれたまちづくりなど地域も期待する内容が盛り込まれている。

地域として→今後も状況を見守る

■ふれあい市長室～あなたの地域のまちづくりビジョン～

今年度は、地域でまちづくりビジョンに関連した活動を行う団体を対象に活動報告と意見交換を行いました。

開催日：令和3年8月4日（水）

場所：あけのアクロスタウン アクロスホール

対象団体：明野地区ビジョン推進会議

※明野地域の4つの提言、13の取組については裏面をご覧ください

■お問い合わせ：大分市市民部明野支所 ☎558-1255

明野地域まちづくりビジョン『提言』

提言1 多世代が交流する地域コミュニティの新構築を

明野地域のこれまでのコミュニティ形成においては、恵まれた生活環境と職縁の役割が大きかったが、時代の変遷とともに変化する生活様式や価値観に対応できる新しい地域ネットワークが必要である。隣人の顔が見えるふれあいを積み重ね、多世代が交流する地域コミュニティの新構築への行動が求められている。

【事業番号1, 8, 9, 10, 11, 12】

提言2 明野を総合防災拠点に

安心して暮らせるまちを実現するためには、地域が一体となった防災・防犯対策が不可欠である。幹線道路や公園などインフラの骨格が充実した立地特性を生かし、災害避難時を想定した道路整備等のハード面からご近所の安否伝達等のソフト面まで、まちづくりの知恵を持ち寄り、地域防災を研究・実施する大分市の総合的な防災拠点となることが望まれる。【事業番号2, 3, 5】

提言3 新しい試みと魅力の発信を

新産業都市企業群を支える新興団地起工から50年、ゆとりある住まいは生活者の利便性だけでなく、生産活動の一翼をも担っている。そのような明野には、新しい住まい方を提案する住環境整備、多世代交流を推進する施設整備、利用実態に即した公園整備など、新しい試みのモデル地区として、その魅力の発信が必要である。

【事業番号4, 6, 7】

提言4 多様な文化活動の広がりや深まりの推進を

明野地域の三大行事（大体育祭、明野まつり、芸能祭）は住民交流の場として定着し、地域の融和や団結への期待は今も大きい。交流による出会いは、人と人をつなぎ、まちへの愛着と文化をはぐくみ、次代の担い手育成の契機となる。交流文化の灯が絶えぬよう、多様な文化活動の広がりや深まりを推進したい。【事業番号13】

明野地域まちづくりビジョン会議

平成30年7月

番号	取組名	概要
1	コミュニティ新構築のための多世代交流	高齢者の技能や技術、知識の継承、さらには生きがいづくりや居場所づくりの解決を図るために、多様な組織や人材が活動する拠点施設が必要である。建設の際には、支所の配置、在り方について検討した上で、支所を核施設に図書館や各種交流施設、研修施設等を複合した「多世代交流プラザ」を建設する。
2	明野を総合防災拠点に	明野は地理的、地勢的にも優位性にあることから、防災訓練機能を備えた拠点施設を主とし、子ども科学館を併設した複合的な施設を建設する。
3	幹線道路整備と歩道の改良	<ul style="list-style-type: none"> 慢性的な交通渋滞解消のため、庄の原佐野線の早期延伸と、それに先行する大分臼杵線の4車線化を要望する。 松岡日岡線の交差点改良、沿線の用途地域変更による地域商業の活性化を推進する。 団地内の美化とともに災害発生時と交通安全を見込んだ無電柱化と、歩道のバリアフリー化を図る。
4	公園・緑地の整備と利活用	<ul style="list-style-type: none"> 公園が日常的な交流の場となるよう、マルシェやフリーマーケットを開く。 スポーツ利用のゾーンは憩いのゾーンとは別に、効果的な整備ができるようにする。アクティビティ器具を導入し、多世代に魅力ある運動遊びを提示する。
5	防犯のための環境設計	社会状況の変化によって、防犯や交通安全の機能が相対的に低下してきている。子どもの見守り活動の実施、危険な場所の点検や改善など、防犯性の高いまちとなるよう環境設計を行う。
6	コミュニティバスの運行などの公共交通網の整備	事業者、医療・福祉機関、自治会、行政の協働でコミュニティバスの運行を行うなど、さまざまな方法により公共交通の整備を検討する。
7	多様な世代に対応した住宅の供給	老朽化した公営住宅が再建の段階にきている。多様なニーズに対応できる住宅を供給するために、高層化やエレベータをつけるなど改良が望まれる。
8	地域のつながり強化	<ul style="list-style-type: none"> 地域のつながりを強化するため、コミュニティ・スクールの導入に向け、地域、中学校、小学校、家庭の連携を深める。 子ども同士および子どもを介したコミュニティの新構築を図り、ライフステージに応じた地域での役割を用意する。
9	ふるさと意識の醸成	近年では、小学生へ明野の歴史講座や明野音頭の指導を行っており、ふるさと意識を醸成していく良い機会ととらえている。子どもたちのふるさとへの関心を深め、地域活動への参加意識を高める。
10	地域グループの創生と次世代のリーダー育成	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活力を継続的に発揮するには、子育て世代が地域活動に関わることが最良のエネルギーであることから、横のつながりをつくり上げ、地域グループによる積極的な活動を行う。 他地域と比べ青年層の就業者が多いことから、地域行事に積極的に参加するよう働きかけ、次世代のリーダーとして育成する。
11	自治会区域の再検討	都市内分権を進める上では、自治会区域の再検討が必要である。円滑な運営、きめ細かな世話活動のために、実態を考慮し可能な限り規模の均等化を行う。
12	高齢者を支えるネットワークの構築	高齢者を地域でお互いに見守り・支え合うネットワークを構築し、豊かな地域福祉を実現する。
13	明野ブランドの創生	住民の交流と融和、生活のしやすさや教育環境、明野らしい文化・アート活動等を地域の価値として、明野が誇る地域ブランド・イメージを強化する。